

# 今、授業改革が始まる！

平成30年度 四万十市立中村小学校版

## 国語科 における 資質・能力の育成を目指した 授業づくりのポイント

単元名 「ぼくたち、わたしたちの考える町づくり（小京都中村編）」

教材名 「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」（東京書籍 6年）

### ◆資質・能力の分析 ～質の高い言語活動を位置付けるために～

【身に付けさせたい資質・能力】

#### 【知識及び技能】

(1) 才 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにする力。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使う力。

#### 【思考力・判断力・表現力等】

Aウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力。  
Cウ 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力。

#### 【学びに向かう力】

自分たちの町の未来に関心を持ち、進んで資料等を読んだり、集めたりして自分の考えを相手に伝えようとする力。

最適な言語活動を吟味

【言語活動】

中村の未来を描き、自分たちがこれからできることをプレゼンテーションする。

本校では次に挙げる三つの観点で言語活動を吟味し、言語活動の質を高めている。

- ①資質・能力を身に付けるための言語活動になっているか
- ②課題解決の過程として機能する言語活動になっているか
- ③児童が主体的に学ぶことのできる言語活動になっているか

本単元で育成を目指す資質・能力を、新学習指導要領及び現行学習指導要領の指導事項と本校のマトリックス表を見比べ、左のように3本柱で明確にしている。

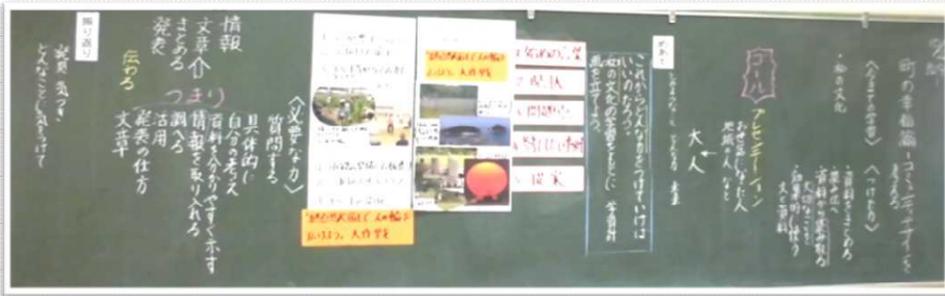
本単元は、本校の総合的な学習の時間の探究課題「地域の伝統や文化の継承と町の活性化に力を注ぐ人々」と国語科の地域の未来を考える学習が関連しているため、地域にプレゼンテーションで発信するというゴールを設定することで、児童は関心や目的意識を持って主体的に情報を集めたり、資料を効果的に活用したりできると考える。

### ◆授業構成・授業展開 ～言葉による見方・考え方を働かせて～

【言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿とは】

プレゼンテーションで自分たちの考えがより伝わるように、改めて言葉の意味や動き、使い方やその効果などに着目し、使う言葉を吟味（推敲）している。

第1次  
1時間目



第1次 課題を設定し、学習計画を立てる

単元の導入では、5年で学習した「和の文化を受けつぐ」を振り返り、既習の力を確かめる。そして、モデルである先生のプレゼンテーションを聞き、必要な力について話し合う。今回は、各自で付箋に書き、思考スキルを用いながら、グループでボードにカテゴリーごとに分類しながら話し合い、発表し合って共有した。それを基に学習の流れを作成することで主体的な学びが実現する。

第2次  
2～5時間目

第2次 紹介する相手や目的を押さえ、自分の考えが伝わるように、表現の効果について学ぶ

プレゼンテーションをするにあたって、教材文「町の幸福論」で、構成を確かめ、筆者の意図やねらいを視点を明らかにしながら読み取り、資料に関してはなぜこの写真なのか、なぜ資料やグラフが必要なのかを押さえる。そして、筆者の主張である「人々とのつながり」を自分たちの提案にも取り入れていくという学習の流れとした。また、思考に関わる語句の量を増やすために、言葉にこだわらせ、プレゼンテーションで使いたい言葉を吟味する時間を設定した。地域の方へのプレゼンテーションという相手意識を持つことで、積極的に大人を意識した伝わりやすい言葉を使おうとする児童の姿が見られた。

「とても」を「圧倒的に」に変えることで、もっと伝わりやすくなるんじゃないかな？



「圧倒的」という言葉は国語辞典で調べると、否定的なことを説明する時には使わないみたい。もっとよい言葉がないか、他の班に聞いてくるね。

聞き手を引きつける言葉や大人を意識した言葉を図書の本や国語辞典、語彙の一覧表などを用いて、調べたり参考にしたりしながら言葉を選んでいる姿。

第3次  
6～12時間目

第3次 プレゼンテーションの原稿を作成し、3観点（構成・資料・言葉）から改善する

情報を整理して構成メモをつくり、プレゼンテーションの原稿を作成する。そして第2次で学んだ①伝わりやすい構成②資料の効果的な活用③聞き手を引きつける言葉等の工夫の3観点に着目してプレゼンテーションを改善していくという学習の流れとした。その際、本単元では、実際に話す・聞く活動を何度も行うことで、付けた力が身に付くと考え、「試す→改善→試す→改善→試す」という螺旋的に学び高まる単元計画とした。1回目のプレゼンテーションは、グループ同士で、2回目は校内の先生に行うことで、表現の効果について再考しより深く追究する児童の姿が見られた。

発表の際には、ボードに資料やグループで吟味した言葉、構成の短冊等を掲示した。そして、発表を聞いた他のグループに改善点を3観点（構成・資料・言葉）で付箋を分類しながら貼ってもらい、自分達のグループに取り入れたものを吟味した。



「現状の問題点」をランキングにして表すという意見、取り入れる？伝わりやすくなるかな？

第4次  
13時間目

第4次 プレゼンテーションを行い、単元を振り返る

地域の方々に向けて、プレゼンテーションで自分たちの考えを発信する。身に付いた力を自覚し、今後の学習や生活に生かす。

### ◆よりよき学びを実感させる工夫 ～振り返りの在り方～

本校では、振り返りがただの感想になったり分かったことだけに終始したりしないように、自己の変容を手応えとするための振り返りの三つのポイント【①自らの変容に気付く②変容の場面を自覚する③変容の要因を明らかにする】を共通確認し、付けた力に結び付く記述になるよう、授業に合わせて振り返りの視点を提示している。そして、児童の記述から付けた力が付いているかどうかを見取っている。また、コメント（評価や感想、励まし等）を丁寧に入れることで、学習意欲を高めている。

時	本単元の振り返りの視点(抜粋)
4	文章と図を関連付けて考えることで、どんな効果があったのか、またこのことをどう生かせるか。
7	グループの原稿の繋がり具合は何%ぐらいの仕上がりが。理由を入れて書く。
11	今日のプレゼンテーションは何点か。前回と変わったのはどんなところか。また、今日分かったことが次回どう生かせると思うか。

第3次でグループでのプレゼンテーションを改善する際には、点数を付けることで自分の学びを評価し、変容が分かるように振り返りを工夫している。

児童の振り返り：4時間目

文章と図を関連付けることで、文章で伝えたいことがより分かりやすくなると思います。結果を説明する時に、グラフを使うことで聞き手により分かるようにしたいです。  
文章と資料を関連させる力を、これからの総合的な学習の時間で生かし、聞き手に伝わりやすいプレゼンテーションに仕上げたいです。